

【緑地を楽しむ本】

## 『いのちの中にある地球』

最終講義：持続可能な未来のために

デヴィッド・スズキ/著

辻信一/訳 NHK出版



悪夢のような原子力発電所の事故とその後の放射能汚染・・・あれからまだ半年もたたず、今後の見通しすらつかない状況なのに、もう止まっている原発を再開しようという動きになってきています。

再開を訴える政治家たちには、放射能から守るべき子どもや孫たち

はいないのでしょうか？信じられない思いです。

地球を構成している水や空気、土に至るまであらゆるものは私たちの体を作りいのちを育み、また地球へと帰ってゆきます。私達が吸って吐きだす空気は地球のあらゆる場所に拡散していきます。そしてどこにいても、1年後にはまた同じ空気の何分の一かを吸っていることになるそうです。恐竜が吸っていたであろう空気も、今我々は吸っているのです。そしてこれから先何世代も後の人たちも、この空気を吸います。そ

んな重要な空気を有害物質で汚染することは、自分自身に危害を加えることと同じです。水も、土も、汚くすると自分たちの体に戻ってきてしまいます。

この本は原発事故の前に書かれているのに、放射能汚染による空気も、水も、野菜も本当にその通りになっていることがわかりました。

エコロジーとエコノミー、このエコは同じ語源で「住みか」を表すものだとして書いてあります。住む場がエコロジー、住む場所をどう管理・運営するかというのがエコノミーの役割だそうです。人間は生物として、生物圏から与えられるものなしには生きて行けないということを考えれば、地球と経済のどちらを優先すべきかは自ずと明らかです。

本書は、著者がブリティッシュ・コロンビア大学を退官するにあたっての最終講義をまとめたもの。若者たちへ託す地球への思いに溢れています。

(小川)